

多摩第三小学校建替基本構想 (事務局案)



令和5年2月11日現在

多摩市教育委員会

多摩第三小学校建替基本構想

目次

1. 基本構想の背景と目的	1
(1) 背景	1
(2) 目的	1
2. 現状の分析	2
(1) 建物の現況	2
(2) 児童数・学級数の推計及び通学区域	3
(3) 児童アンケート・懇談会を通じた意見や要望の把握	4
3. 整備方針	10
(1) 施設整備の進め方	10
(2) 目指すべき学校施設と整備方針	10
(3) 公共施設マネジメント	11
(4) 意見の聴取と反映	11
4. 与条件の整理	12
(1) 配置の条件について	12
(2) 教育環境の充実についての具体的な取り組み	13
(3) 地域の連携について	14
(4) 校舎建替えの施設規模	14
(5) その他	14
5. 事業スケジュール	15
(1) 事業スケジュール	15

1 基本構想の背景と目的

(1) 背景

多摩第三小学校は、令和7年度に築後60年を迎えます。

多摩市では、公共建築物の老朽化に適切に対応し、長寿命化を図ることを目的に平成30年3月に『第二次多摩市ストックマネジメント計画（以下、計画といいます）』を策定し、築後50年を目安に物理的性能や経済的性能、機能的性能について総合的に検討するとしており、その結果に基づき施設のあり方について再検証し、築後60年を目安に長寿命化または建替えを行うことを計画に決めました。

多摩市教育委員会では、平成21年度から「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズにESD（持続可能な開発のための教育）の充実と発展を基本方針として定め、SDGs（2030年における17のゴールと169のターゲットで構成される持続可能な開発目標）との関連を図って取り組んでいます。ESDを推進している多摩市教育委員会としても、「多摩市気候非常事態宣言」を踏まえた環境負荷低減の取り組みを推進していく必要があります。

また、1人1台タブレットの導入などのGIGAスクール構想により、急速にICTの活用が進むなど、教育環境が大きく変化しています。

昭和39年に建設された多摩第三小学校の校舎は、児童が安全かつ安心して学校生活を過ごすため、建築物の老朽化対応とあわせて、現在求められている学校施設の機能や教育環境など、建設当時から大きく変化した社会的ニーズを把握し整理して建替える必要があります。

(2) 目的

多摩市教育委員会では、学校、家庭、地域の連携、協力の拡充を教育目標の1つとし、互いにつながることによって教育力の向上を目指しています。このことから、市民の建替え事業への参加機会の提供を目的に、地域懇談会を実施し、児童保護者、コミュニティセンター、自治会など地域住民と市で意見交換・情報交換を重ねました。

本基本構想では、新たな学校施設の規模や事業スケジュールを設定するための与条件の整理を行うとともに、地域懇談会を通じていただいたご意見やご要望を反映させ、基本計画策定を経て速やかに基本設計へ移行できることを目的にまとめました。

2 現状の分析

(1) 建物の現状

(ア) 敷地概要

- ア 所在地：東京都多摩市乞田 714
- イ 用途地域：第一種住居専用地域
一部準住居地域（敷地北側・多摩ニュータウン通り沿い）
- ウ 容積率：200%
- エ 建蔽率：60%
- オ 防火指定：準防火地域
- カ 高度地区：23m第2種高度地区
- キ 日影規制：4.0-2.5h / 4.0m



図1. 案内図

(イ) 建物状況

ア 敷地面積：12,381 m²

イ 現有建物：下表のとおり。

表1. 現有建物

名称	延べ面積 (m ²)	構造	階数	延べ面積 (m ²)	建築年月	
校舎	3,701	中央棟	RC	3	1,824	S40.3
		東棟	RC	3	777	S43.3
		西棟	RC	3	915	S57.3
		増築棟 (3棟)	RC, S	1, 3	185	H20.4
体育館	714		S	2	676	S46.11
		トイレ	S	1	18	S52.3
		倉庫	S	1	20	S62.10
プール	61	管理棟	RC	1	61	S51.7
倉庫等	173	倉庫等 (防災倉庫を 除く9棟)	S	1	5~60	S52.9~ H20.4
合計	4,649					

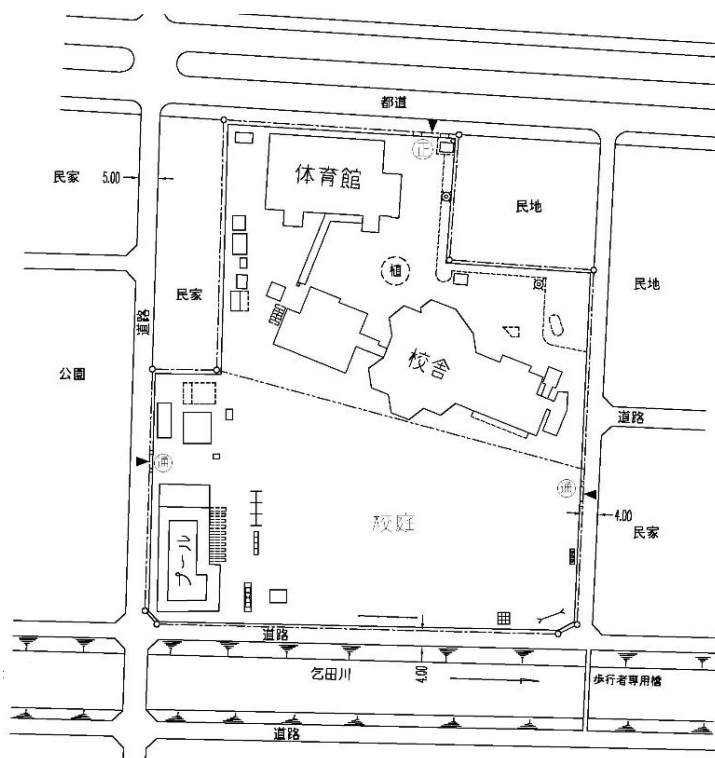


図2. 現況配置図

(2) 児童数・学級数の推計及び通学区域

(ア) 児童数・学級数の推計

	令和4年度（実績）		令和10年度（推計）
児童数	331	⇒	451
学級数	12	⇒	16

(イ) 通学区域

多摩第三小学校の通学区域は、建替え後も現状と同様に、愛宕四丁目の一部、乞田の一部、桜ヶ丘二丁目、関戸六丁目の一部、貝取の一部、貝取一丁目の一部、豊ヶ丘一丁目の一部、落合一丁目の一部とします。



図3. 多摩第三小学校の通学区域

(3) アンケート・懇談会を通じた意見や要望の把握

現状及び将来の多摩第三小学校について、子どもたちの意見を、アンケートの実施（4～6年生）及び『将来通ってみたい学校、学校にあったらいいな、学校でやってみたいこと』を、絵に描いてもらい（1～3年生）、施設の課題や期待するところまでの把握をしました。

また、教職員を対象にしたアンケートを実施し、日頃から子どもたちを見ている視点での意見を徴取しました。

児童保護者や地域住民を対象に開催した地域懇談会では、グループミーティングなどを通じて、地域の想いと地域で子どもたちを育むための学校施設について、意見交換をしました。

◎多摩第三小学校建替えに伴うアンケート調査

【児童アンケートの結果】（n=141）

① 多摩第三小学校で好きな場所はどこですか。（いくつでも。）

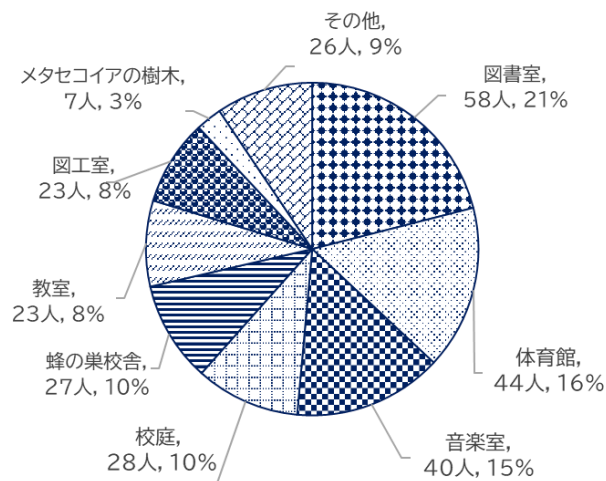


図4 多摩第三小学校で好きな場所（n=276）

② 学校の中で良くしてほしい場所と理由を1つ教えてください。（n=140）

	良くしてほしい場所	回答数	割合	理由
1	トイレ	74	53%	ニオイがきつく、暗く汚い。 洋式が少なく、よく行列になる。
2	教室	12	9%	狭い、綺麗だとやる気が起きる。
3	体育館	7	5%	床が滑る。エアコンの設置。
4	特になし	6	4%	
5	校庭	5	4%	全学年校庭に出ると狭い。
6	その他	36	25%	ロッカーが小さい。など。
	合計	140	100%	

③ 新しい学校に『あったらいいな』と思うものや場所、理由を1つ教えてください。(n=141)

- 蜂の巣校舎
校歌の歌詞に『蜂の巣の学び舎に』というところがあるから。
- 本を静かに読める場所
教室では騒がしくゆっくり読書ができない。
- 体育館にエアコン設置
夏は暑く熱中症になりそう、冬は寒く集中できない。
- 校庭を芝生化
座るとズボンに砂が付くため。
- 担任の先生と養護の先生と相談ができる部屋
言いにくい相談や女子が困っていることを気軽に相談できるように。
- 着替える広い場所
今の更衣室は狭いのと、4年生以下は使用できないため。
- 広いロッカーを設置
今のロッカーは狭く、開閉が難しいものもあるため。
- 学童クラブを併設
今の学童クラブは学校から離れた場所にあり、行くのが大変なため。
など。

【低学年児童の描いた絵】(n=179)

詳細は【資料編】にて

【教職員アンケートの結果】(n=14)

① 多摩第三小学校で良いと思う場所はどこですか。(いくつでも。)

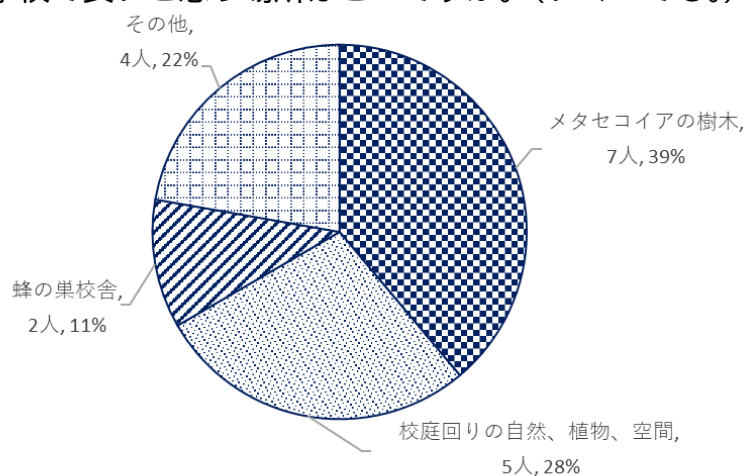


図5 多摩第三小学校で良いと思う場所 (n=18)

② 働いて感じる蜂の巣校舎の特徴を教えてください（いくつでも）（n=46）

（ア）メリット

- 教室前のフロアが共通なので、他校と比べ学級間の境を感じない
- 他のクラスの子どもたちともよく顔を合わせられ、声を掛けられる
- 事務室は北側に面して冬は寒いですが、配送を受け取るなどの利便性がよい
- 教室の移動距離が短い
- 学年が中央部に集合できる

（イ）デメリット

- 長方形、正方形の教室と比べて使いにくい
- 北側教室は冬の寒さがこたえる
- 教室のフローリング貼り方向が黒板に平行ではないので、机を揃えにくい
- 校庭と校舎が平行ではないため、運動会の会場設置がしにくい
- 掲示スペースが少ない
- ロッカー等収納が設置しにくい
- 中央部は換気ができない など

③ 新しい学校に『あったらいいな』と思う設備やレイアウトと理由を教えてください（いくつでも）（n=45）

- 成人仕様の教職員専用トイレ（入口には扉を付ける）
教職員も安心して清潔にトイレが利用できるようにするため
- 男子トイレの個室化
児童が安心して清潔に利用できるように
- 真っすぐで見通しのよい廊下のある校舎
視認性がよく安全性が確保できるため
- 学年で集まることができるホール
学年集会や発表会、書初めを行うスペースが必要であるため
- 男女別児童の更衣室
場所がなく、現在は物置を利用しているため
- 庇のあるベランダ
植物の世話は、すぐ水やりができる環境だと児童の意欲が違うため
- 体育館に暖房設備を導入
年々寒さが増してきているため
- 校長室→職員室→事務室の順に1階に配置
利便性の向上を図るため など

【地域懇談会開催状況】

①第1回開催

(ア) 日時：令和4年12月3日(土) 13時00分～14時30分

(イ) 場所：多摩第三小学校 体育館

(ウ) 参加者：合計33名(会場22人、オンライン11人)

児童保護者、卒業生、地域住民、自治会、学校運営協議会委員、乞田・貝取ふれあい館運営協議会、教育委員、市議会議員など

(エ) 内容：整備の方向性について、事業スケジュール(案)について、多摩市の将来的な人口推計・児童推計について、意見交換

(オ) 当日の主な意見

- 学びの質を高める学び舎に留意してほしい
- 第三小のシンボルとなる蜂の巣校舎やメタセコイアの樹木を残したい
- 防犯機能を考慮し、子どもが安全に過ごせる施設としたい
- 学童クラブを学校敷地内に設置してほしい
- 現場で働く教職員の意見も計画に反映すべきと考える
- 現敷地内での建替えにあたり、新たな校舎はどの位置に建てるのか
- 建替えに掛かる想定予算規模はどのくらいか など

②第2回開催

(ア) 日時：令和5年1月21日(土) 13時00分～15時30分

(イ) 場所：多摩第三小学校 校舎3階 図書室

(ウ) 参加者：合計43名(会場33人、オンライン10人)

児童保護者、卒業生、地域住民、自治会、学校運営協議会委員、乞田・貝取ふれあい館運営協議会、学校教員、教育委員、市議会議員など

(エ) 内容：事業スケジュール(案)について、第1回懇談会参加者からの主な意見、建替基本構想について、グループミーティング、質疑応答

(オ) グループミーティングでのご意見・要望など ※共通意見

テーマA 地域で子どもたちを育む学校施設

◎校舎配置

- 校舎は今まで通り東西配置がよい
- 校庭は南側配置がよい
- 校庭が狭いため、プールの見直しとあわせて検討し、校庭拡大したい
- 学童クラブを敷地内に設けてほしい
- 体育館建替えも同時に検討してほしい
- 敷地拡張も検討すべき

◎改善した方がよい場所

- トイレ 匂い、暗さ改善、男子個室ブースの増加など
- 保健室や図書室などを児童が心を休ませる場として計画してほしい
- 学年全体で集まれるような教室 or スペースがほしい

◎防犯・防災

- 門や玄関は職員室の大人がよく見えるようにしてほしい
- 地域の防災避難所としての最適化

◎地域交流

- クラブハウスを設置してほしい
- 学校教員、PTA 活動、地域交流として利用できる場所がほしい
- 校舎内に地域の人や親子が入れる場所（図書室等）があるとよい

テーマB 建替えに対する地域の想い

◎蜂の巣校舎

- 校舎として蜂の巣型を残すことができなければ、モニュメントを残すか、クラブハウスなど別館を蜂の巣型にしてはどうか
- 蜂の巣型を残してほしいが、先生方の意見を尊重してほしい

◎メタセコイアの樹木

- 三小のシンボルであるため、桜の木とあわせて残してほしい など

3 整備方針

(1) 施設整備の進め方

多摩第三小学校の校舎については、築 55 年を経過した令和元年度に劣化度診断を実施しました。その結果、構造耐久性の残存年数は、増築棟により築年数が異なる校舎のうち、2棟が 20 年未満、1棟が 40 年以上と示されました。なお、耐震補強工事を実施しており、当面の間は安心して使い続けられる状況であることを確認しました。

しかし、改修では、部屋の配置や大きさの変更には制限があり、ニーズに応じた使い勝手を改善することはできません。そのため、本事業では校舎の延命化を目的とした改修ではなく、建替えによる適切な教育環境の整備を行います。

なお、体育館は改修（残置）を想定していますが、プールの整備については市の全体的な整理を踏まえながら、今後の基本計画策定過程で検討していきます。

(2) 目指すべき学校施設と整備方針

国では、令和 4 年 6 月 28 日付、4 文科第 166 号にて学校施設整備指針の改訂がされました。その中で「新しい時代の学びを実現する学校施設の方向性（目標水準）」が以下に策定されたため、今後の基本計画策定過程で検討していきます。

- ① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する
 - ア 1 人 1 台端末環境（児童生徒向けに 1 人 1 台学習用端末を整備するもの）等を整備するとともに対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教育環境の整備
 - イ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
 - ウ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場、映像編集空間（スタジオ）の整備
- ② 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現する学校施設
 - ア 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
 - イ 快適な空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化
- ③ 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間の実現

- ア 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点としての「共創空間」を創設
- イ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等
- ④ 子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
 - ア 建替え等により、安全・安心な教育環境を確保
 - イ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能の強化
- ⑤ 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現
 - ア 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、環境配慮型校舎を推進
 - イ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（室内利用）を推進

（3）公共施設マネジメント

今後、多くの公共施設が更新時期を迎えることから、財源の割り当てが困難となることが想定される中で、学校施設を適切に維持するため、建替整備にあたっては、老朽化した施設機能を単純に更新するのではなく、点検や調査に基づく予防保全を行うなどの長寿命化対策を講じながら安全な学び舎を維持管理できる施設整備を行います。

また、長期に渡り使い続けるために必要な機能を充足した建替えを行うにあたり、財政負担を軽減するために、積極的に国庫補助金や都支出金など特定財源の獲得を目指します。

（4）意見の聴取と反映

新たな施設計画においては、使いやすい施設を整備するため、施設をつくる側と使う側（児童・教職員・児童保護者・地域の方など）が意見交換を重ね、合意形成の上で進めていくことが重要です。本構想策定に向けて実施した地域懇談会や児童・教職員アンケートを通じていただいたご意見や低学年児童の描いた絵、今後の基本計画策定時に実施するワークショップの意見を積極的に整備方針に反映させ、適時報告により共有しながら市民協働で新たな施設計画を進めていきます。

4 与条件の整理

多摩第三小学校校舎の建替事業を実施するに当たり、「3 整備方針」の内容を基本とし、学校独自の条件を加味した整備を行います。

(1) 配置の条件について

多摩第三小学校校舎の配置の条件を整理し、具体的な複数の配置を今後の基本計画策定過程で検討していきます。

① 児童の安全・安心を考えた配置計画の検討

児童の安全・安心を第一に考え、昇降口、校庭等の動線が教職員の死角にならない（職員室からの動線が確認できる）ようにするなど、不審者対策を考えた配置とします。

また、北側道路（通称：多摩ニュータウン通り）と正門の位置関係について課題があります。

② 校舎と校庭の位置関係の検討

校舎と校庭の位置関係や広さのバランスについて、現状やこれまでの経緯等を鑑みながら、以下の懸念事項や利点があります。

- 校舎が既存の配置と同じ配置とする場合、仮設校舎に一度移って建て替えを行うことになり、建替え期間中の室内環境等に制約が出るとともに、校庭は仮設校舎がある期間は敷地外で対応することになります。
- 校舎を既存の配置より北側とした場合については多くの課題がありますが、校庭は広く確保することができます。
- 校舎を西側や東側とした場合は、西側の民地、東側の道路と隔てた民地との関係が懸念されるとともに、校庭には仮設校舎は要らないものの現在の校庭のような長方形の形状を確保することが困難となります。
- 校舎を南側とした場合は、冬季において、校庭への日陰が発生し、水はけが悪くなることや、凍結が発生することが懸念されます。ただし、道路斜線、高度地区及び日影規制の影響のかからない範囲であれば、仮設校舎が不要となり、建設工事費が抑制される等の利点もあります。

③ 体育館の運用と配置

工事中でも体育館を安心して使用できるような配置及び工事手順（先行で体育館を改修するなど）を検討する必要があります。

④ 地域の想いが込められたメタセコイヤの樹木について

地域の想いが込められたメタセコイヤの樹木と校舎の配置についてはお互いに影響があります。

⑤ 学童クラブの校地内設置の検討

市の学童クラブは、基本的には学校敷地内への施設整備を進めるという方針を踏まえ、多摩第三小学校建替整備にあたっては、市長部局と連携し検討していきます。

(2) 教育環境の充実についての具体的な取り組み

① 普通教室

『新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について』（文部科学省）では、多様な学習内容・学習形態に対応可能な柔軟な学習空間の整備が求められており、GIGAスクール構想に伴う1人1台端末利用によって、児童机の大きさは従来の規格（600×400mm）から新たな規格（650×450mm）の整備の必要性が高まり、多摩市教育委員会では全校対応しました。また、令和2年2月以降には新型コロナウイルス感染症が拡大し、『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』（文部科学省）が発行され、ここでは児童生徒の間隔を可能な限り2メートル（最低1メートル）確保するよう努める必要がある旨が記載されています。

このように、従来の教室の大きさでは昨今の教育環境のニーズへの対応が困難です。

普通教室の大きさや形状、配置計画については、今後の社会的情勢を考慮しながら、多彩な学習形態に対応できる広さと機能性を備え空間を検討していきます。

また、多摩第三小学校では、特徴的な蜂の巣校舎を活かした形状があり、適切な教育環境の確保や機能、学習効果まで含めた検討が必要となります。

【配置条件】

- ・新JIS机（650×450mm）×35人分
- ・机配置：図6参照 ※教室が四角形となった場合の参考配置計画図

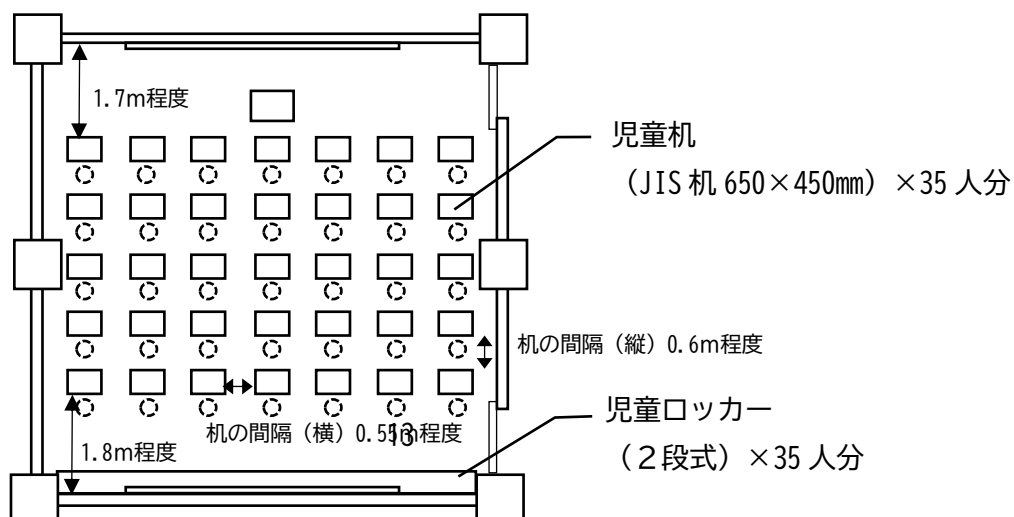


図6. 普通教室内の配置計画（案）

- ② 多目的ルーム
複数の学級活動や地域との交流など、多様な学習活動にフレキシブルに対応できる空間又はスペースの設置を検討します。
 - ③ 特別教室及び準備室、管理諸室、その他付随の種類や室数については基本計画で検討します。
- (3) 地域との連携について
- ① 地域開放・災害時の避難所としての整備は、今後の基本計画策定過程で検討していきます。
 - ② 多摩市教育委員会で進めているESD（持続可能な開発のための教育）の推進下で、地域とともに子どもたちを育む観点で、多摩第三小学校が取り組んでいる「乞田米を作ろう」など、地域の伝統や文化活動などに根差した学校独自の取組が可能な施設計画とします。
- (4) 校舎建替えの施設規模
- ① 構造：設計段階で検討
 - ② 階数：4階以下
 - ③ 延べ面積：設計段階で検討※
※校舎棟は約6,570㎡（多摩第二小学校と同規模程度）で建設可能
 - ④ 付属施設：基本計画及び設計段階で検討
- (5) その他
- ① 多様な子どもたちへの配慮（障がい者、LGBTQ、配慮が必要な子ども）
 - ② 環境配慮
 - ③ 快適な学習環境（トイレ洋式化、冷暖房など）
 - ④ GIGAスクール構想を踏まえたICT環境
 - ⑤ バリアフリーの推進

5. 事業スケジュール

(1) 事業スケジュール

- ① 令和5年度 : 基本計画策定
- ② 令和6～8年度 : 基本・実施設計
- ③ 令和7・8年度 : 既存校舎解体工事
- ④ 令和8・9年度 : 校舎新築工事
- ⑤ 令和10年4月 : 新校舎運用開始